

《担当者名》澤田篤史

【概要】

栄養は身体のエネルギー源であると同時に、身体の構成要素である。栄養は過剰でも不足でも心身機能に大きな影響を及ぼすため、リハビリテーションに求められる全人的な評価の一つの要素として患者の栄養状態を正しく評価することが求められている。本科目では、各栄養素の基本的な性質や働き、基本的な栄養評価方法を理解するとともに、身体における栄養の役割を学修し、医療者に求められる栄養学の基礎を構築することを目標とする。

【学修目標】

一般目標

各栄養素の基本的な性質や働きの学修を通してリハビリテーション領域における栄養学的重要性について理解できる。

行動目標

1. 各栄養素の性質や働きや必要量についてその概要を説明することができる。
2. リハビリテーション栄養について説明できる。
3. 基本的な栄養評価方法を説明できる。
4. 栄養不良や過栄養の身体への影響を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-----------------------|---|------|
| 1 | リハビリテーションにおける栄養知識の重要性 | リハビリテーション栄養の概念 リハビリテーション領域における栄養障害 | 澤田篤史 |
| 2 | 栄養素の働き | 三大栄養素の栄養的意味を理解する。 | 澤田篤史 |
| 3 | 栄養素の働き | ビタミン類の栄養的意味を理解する。 ミネラルの栄養的意味を理解する。 | 澤田篤史 |
| 4 | 栄養評価 | 栄養スクリーニング 栄養評価のための身体機能測定 | 澤田篤史 |
| 5 | 栄養評価 | 栄養評価のための臨床検査 エネルギー必要量 | 澤田篤史 |
| 6 | リハビリテーション栄養 | 疾患別リハビリテーション栄養アプローチ リハビリテーション栄養における専門職種との関わり | 澤田篤史 |
| 7 | 疾患別栄養療法 | サルコペニアの病態 サルコペニア予防のための栄養療法 | 澤田篤史 |
| 8 | 疾患別栄養療法 | 脱水のメカニズム 脱水予防・治療のための水分摂取方法 | 澤田篤史 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験 100%

定期試験は返却しないが、個別の問い合わせがある場合はフィードバックを行う。

【教科書】

内山靖 他 編 「リハベーシック 生化学・栄養学」 医歯薬出版 2020年

【参考書】

栢下淳 等 編著 「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」第2版 医歯薬出版 2018年

鈴木啓介 編 「リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術」 MEDICAL VIEW 2018年

中屋豊 著 「よくわかる栄養学の基本としくみ」 秀和システム 2009年

【学修の準備】

栄養学の基本となる消化管の働きや消化・吸収について、解剖学や生理学の教科書等で十分に予習をすること（80分）。
復習は、毎回の授業資料を中心に十分に学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

理学療法士

【実務経験を活かした教育内容】

臨床栄養に関する理学療法士としての実務経験に基づき講義を行う。